

# 作家宇野千代の生家

# 宇野千代生家

桜も日本一、錦帯橋も日本一、  
こんな日本一の故郷を持っている幸せ者が  
二人とあるだろうか。  
私は、とても故郷に感謝している。  
人間をつくるのは、故郷なのです。

山口県岩国市

●撮影(生家) 藤森武 ●構成樋口友康



表札ごしの時計の風

「おはんか。かわりないか  
久しぶりなア。」  
語り的手法で新境地を開いた  
宇野千代の名作「おはん」は、  
ここ岩国城下町を舞台に  
物語が幕開く。  
登場する美しい地名や店名も、  
かつての城下町岩国そのもの。  
岩国には千代が日本中に自慢した錦帯橋、  
明治時代に建築された千代の生家、  
墓所、文学碑、記念碑が点在し、  
千代ゆかりの町並、  
山河が昔と変わりなく息づいている。

## 宇野千代と名作「おはん」の舞台 岩国城下町マップ

★幸福の言葉設置場所

- 1 宇野千代生家
- 2 教蓮寺・宇野千代の墓所  
(千代の墓所は本堂の前にある)
- 3 大師院  
「幸福は幸福を呼ぶ」  
宇野千代顕彰碑
- 4 臥龍橋
- 5 龍江洲
- 6 鉄砲小路
- 7 岩国学校教育資料館
- 8 よしだ
- 9 半月庵
- 10 深川
- 11 錦帯橋
- 12 吉香公園
- 13 紅葉谷公園・おはん文学碑
- 14 岩国城
- 15 妙見社
- 16 水西書院
- 17 鞍掛合戦追悼碑(千人塚)
- 18 周東町高森・宇野千代文学碑



羽田空港～岩国錦帯橋空港  
約1時間30分  
那覇空港～岩国錦帯橋空港  
約2時間  
岩国錦帯橋空港～宇野千代生家  
タクシーで約20分

**宇野千代生家のご案内**

- 開館時間は、午前10時より午後4時まで。
- 休館日：毎週火曜日、年末年始
- 入館料：大人(高校生以上)…310円 団体260円(15名以上)  
中・小学生 ……100円 団体 80円(15名以上)
- お問い合わせ：NPO法人 宇野千代生家  
山口県岩国市川西2-9-35  
TEL・FAX(0827) 43-1693
- URL：https://www.unochiyoseika.jp

(宇野千代生家HP)

**岩国観光のお問い合わせ**

岩国市観光振興課  
〒740-8585 山口県岩国市今津町1丁目14-51  
TEL 0827-29-5116 FAX 0827-22-2866  
https://kankou.iwakuni-city.net/

(一社)岩国市観光協会  
〒741-0062 山口県岩国市岩国1丁目5-10  
TEL 0827-41-2037 FAX 0827-41-2073  
https://www.iwakuni-kanko.jp

(岩国市観光協会HP)

明治三十年十一月二十八日

私は周防の国岩国大字川西の八百七十七番地の家に生まれた。

現在の岩国川西は、文字どおり有名な錦帯橋の架かる錦川の西側にあたる町で、その生家は千代によって昭和四十九年（一九七四）に、ほぼ昔のままに修復された。



岩国川西・宇野千代の生家 登録有形文化財



千代が生家に植樹した岐阜県根尾村の淡墨の桜



庭から見る生家

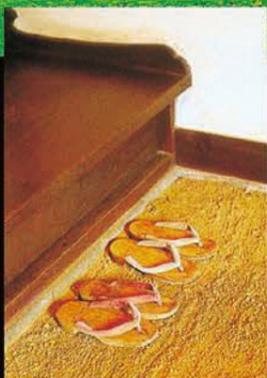
庭に面した千代の文机



新緑の生家の庭



秋の紅葉



玄関の上がり框<sup>かまち</sup>にある千代の下駄



千代の父の時計の間



晩秋の庭



お国はどちらですかと、訊かれると、「岩国です、あの錦帯橋の」と答えるのが私の癖である。いつ帰って見ても錦川の水は澄んでいる。魚が泳いでいるのがよく見える。春夏秋冬の錦帯橋は、それぞれに美しいが、桜の頃の錦帯橋は、特に好きである。この錦帯橋をわたる度に、私は何とも言えない幸福な気持ちになる。いくら自慢しても自慢しきれないほどの気持ちになるのである。

### 宇野千代 うのちよ◎作家

1897年(明治30年)山口県生まれ。1914年岩国高等女学校卒業。21年処女作「脂粉の顔」懸賞短編小説一等入選。作家活動に入る。35年初期代表作「色ざんげ」を発表。36年スタイル社設立。女性誌「スタイル」創刊。57年代表作「おはん」で野間文芸賞受賞。58年女流文学賞受賞。72年芸術院賞受賞。83年「生きて行く私」を発表、ベストセラーとなる。90年岩国市名誉市民となる。文化功労者として顕彰される。96年没。勲二等受勲。享年98歳。